

豊かな土壌環境を育み、自然の循環機能を活かした安全な農産物を提供

—有機性廃棄物分解機能—

NPO法人 ゆうきハートネット

豊かな自然
(木曾川水系
黒川と川沿
いの林) →



白川町黒川地区の田園風景
(田植えの頃 (5月下旬))

1998年(平成10年)、木曾川上流域の自然豊かな山間地域で、有機農業で地域を活性化しようと10名の農業者が集まり「ゆうきハートネット」を設立、以降、有機農業のノウハウを全員で習得、実践を通じて化学肥料や化学農薬を使わない農法の技術を磨き、販路開拓や若者の就農や定住の支援を行っている。

2011年(平成23年)の法人化を経て会員は現在44名。この農法の実践により自然の循環機能が活かされた豊かな土壌生態系が形成され、消費者が安心できる安全な農産物を提供している。



しらかわちょう
岐阜県白川町



安全で品質の高い有機農産物
(消費者との直接販売、名古屋市のオーガニックファーマーズ朝市等多様な販路を通じて販売)



米ぬかペレットの散布状況
(米ぬか(栄養豊富)をペレット状にして田んぼ表面に散布すると微生物の働きが活性化、雑草を抑制する効果もある)

〔有機性廃棄物分解/資源の過剰な集積・収奪防止〕

会員の農地は、化学肥料や化学農薬を使用せず、地元から出る有機資材(米ぬか等)を用いた堆肥や緑肥等の適切な施用を行うことにより、土中の微生物や土壌動物の働きが活性し、土壌粒子が適切な水分と空気を含む隙間を持った状態となり、根が成長しやすく、微生物が有機物を分解して窒素、リンなどの養分や微量元素を再び根から吸収する自然の循環機能を活かした「安全」で品質の高い有機農産物を生産し、消費者に提供されている。

〔体験学習と教育〕

会員が運営に関わる郷蔵米生産組合、大豆畑トラストでは毎年多くのオーナー(消費者)会員と夏祭り、収穫祭などで現地交流を行っている。また、移住してきた若手農家は、有機農業をする側ら、水源と有機の里の魅力を活かした農業体験、食育体験の場(EDIBLE YARD、Hygge Table等)や堆肥づくりワークショップなど、里山と有機食材の魅力を発信する新たな取組を行っている。



種もみの「温湯消毒」
(農薬を使わず病害虫対策)



手押しの除草機(田車)で除草



収穫した稲を自然乾燥する「はさ掛け」を体験する消費者



EDIBLE KUROKAWA YARD
(エディブル 黒川 ヤード)
(農業体験を通じ食べる大切さを学ぶことができる食育プロジェクト)



Hygge Table (ヒュッゲ テーブル)
(自然あふれる里山に心地良い空間を創りおいしい料理を食べ語らうプロジェクト)



堆肥づくりワークショップ
(「土を育てる」をテーマに堆肥づくりを五感で学ぶ講座とワークショップ)



東海農政局の
←当該ウェブサイトはこちら

東海 10

《 NPO法人 ゆうきハートネットHP 》

<https://www.yuki-heartnet.org>

令和5年3月作成